

令和5年度 学校評価報告書

丹波篠山市立 大山小学校

校長 山 本 真

1 学校教育目標等

夢や希望をもち、生き生きと輝く大山っ子の育成
～大好き自分・大好き友だち・大好き大山～

2 今年度の重点目標

安全で安心して学べる教育環境づくりに取り組む。

①安心できる学級づくりや一人一人の個性を生かした計画的な学級経営に努める。

②いじめや問題行動・不登校傾向等が見られる児童について、未然防止・早期発見・早期対応に組織的に取り組む。

③全教職員の協働体制を充実し情報共有や児童理解に努め、スクールカウンセラー等専門家や専門機関と積極的に連携し、気になる児童の早期発見とコンサルテーションに努める。

3 学校自己評価結果

(達成状況…A：よく達成できた B：達成できた C：やや課題が残る D：改善を要する)

分野	評価項目	達成状況	取組状況・改善方策
教育課程・学習指導	学力向上	A	学力調査の結果分析を学校独自で行い早期に授業改善や課題の対策を進めた。また、PDCAサイクルを意識した学習方法により、個々の課題にあわせた学習に取り組めた。
	道徳教育の充実	A	昨年度に引き続いて道徳科の授業改善に取り組み、講師を招聘した研究授業を行う中で実践的指導力の向上が図れた。
生徒指導	組織的な取組による情報共有と早期対応	B	生徒指導委員会・学団会議の定期開催、いじめアンケート・子ども個人懇談の実施により児童理解に努めるとともに、組織的な取組の充実により早期対応に図っている。
	スクールカウンセラー(S C) スクールソーシャルワーカー(S S W r)等との連携強化	B	S S W rを交えたケース会議を継続的に実施し、組織的な対応による環境調整などに効果的であった。S Cの児童観察や面談を生かした児童理解や指導方法の工夫改善が進んだ。
特別支援教育	個に応じた指導の充実 医療的ケア等校内支援体制の整備	A	特別支援教育委員会で個別の指導計画の内容検討を深め、個に応じた指導や教育相談の充実を図った。また、学校内外の関係者による連携をすすめることにより、医療的ケアの校内支援体制の整備が進んだ。
保護者や地域との連携	安全点検 安全・安心な学校づくり	B	P T Aや学校運営協議会との連携による安全点検や登下校の安全確保の充実を図り、危険箇所の早期発見や早期対応に努めることができた。地域見守り隊への協力依頼、地域の方々による付き添い下校を実施することができた。

	地域とともにある学校づくり	A	地域の外部講師を積極的に招聘し、効果的な学習を行うことができた。地域のアドバイザーにより学校と地域とをつなぐカリキュラムの推進ができた。
--	---------------	---	--

4 学校関係者評価結果

(1) 重点目標についての評価

<p>○学校経営方針及び重点目標は、適切に設定されている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域と学校、保護者がこれまで以上に協力して、子どもたちの成長に向けて協議したり一緒に活動したりできる連携体制の強化に努めていきましょう。

(2) 総合的な評価（意見・感想）

<ul style="list-style-type: none"> ・教職員による回答では、重点目標等様々な項目で前期より後期の方が良い評価となっており、協力・工夫しながら、しっかりといろいろな課題に取り組まれていることがうかがえる。 ・小規模校の良さを生かしているいろいろな取組をさらにすすめていければよい。 ・地域、学校、家庭の連携は、今年度創立150周年ということでたくさん発信があり、交流もできた。今後各地域での子どもたちとの関わり方も考えていく必要がある。 ・大山の特産物をはじめ自然・文化等、自分の住んでいる所について地域の人と学べることは、地域との交流を含めてとても大事だと思うので今後も大切にしてほしい。

(3) 学校自己評価の結果及び改善方策についての評価

分野	学校自己評価の結果及び改善方策についての評価
教育課程・学習指導	<ul style="list-style-type: none"> ・目標の達成のためにいろいろと工夫・実践されている様子がうかがえる。これからも協働体制で家庭と協力しながら取り組んでいけたら良いと思う。 ・授業は学校生活の大半を占めている。授業は楽しく分かることが大事であり、それに向けて先生方が頑張っておられるのが分かる。 ・ジェンダーの学習に取り組むなど、人権学習の変化を感じた。忙しい中で教職員が現代的な課題に向き合っていることがうかがえる。約10%の子どもが集団の中で学ぶことに課題があると言われているが、そういったことへの取組も必要になってくる。
生徒指導	<ul style="list-style-type: none"> ・学校が楽しく、安心できる場となっていることが、児童及び保護者ともにアンケート結果から分かる。安心して過ごせる学校づくりをさらにすすめてほしい。 ・「いじめ」は、楽しかった思い出よりも心の傷として将来にわたって残ると思われるので、きめ細やかな対応を心がけて取り組んでほしい。 ・子どもでも成人でも、「自分が好き」「役に立っている」と思える感情がやる気のベースと考えられる。学校教育目標にも大きく掲げられているとおりにとても大事である。
特別支援教育	<ul style="list-style-type: none"> ・全体的に子ども一人一人の様子をよく見て指導されている様子がうかがえる。実態把握に努め、個に応じた指導を工夫して取り組んでいただいている。 ・先生方のご指導のもと、一人一人の児童の成長がよくわかる。今後も引き続き子どもたち一人一人に寄り添った指導をしてほしい。
保護者や地域との連携	<ul style="list-style-type: none"> ・大山小学校の強みは、子どもたちが地域の行事に参加したり、地域の方と交流したりできることである。今後もそういった良さを生かしていけるように取り組んでいきたい。 ・地域のことを知ったり地域の人と学んだりするふるさと教育を、これからも大切に取り組んでほしい。学校から地域人材や地域素材の提供については要望があれば、協力をしていく。 ・児童アンケートでは学年が上がるにつれて肯定的な評価が下がっていく傾向がある。自我の芽生えとも関係すると思われるが、「できなかった。」と回答した子どもには家庭ともよく連携していく必要がある。